

地域が求める大学に

八学大学長 小林氏(前八戸市長)抱負 4月就任

八戸市の八戸学院大学の
新学長に4月1日付で就任
する前八戸市長・小林眞氏
(74)が15日、同大で記者会
見し、「時代のニーズ、地
域が求める大学の在り方を
踏まえた計画に基づき、大
学を形作っていくことが私
の大きな役割。進学したい
と思ってもらえる学びやに
するよう努力する」と抱負
を語った。

小林氏は、大学を運営す
る学校法人光星学院が昨年

7月に発表した改組再編構
想案を紹介。「水野眞佐夫
学長は学生、夢、地域に寄
り添うをモットーに、何よ
り学生を第一に考えて素晴
らしい取り組みを続けてこ
られた。しっかりと引き継ぎ、
新年度をスムーズにスタ
トさせたい」と語った。
同大によると、昨年10月
に開かれた学長選考委員会
で、大学に求められる地域
連携をより具体的に進めて
いける人物として小林氏が

この人

八戸学院大の新学長に就任する



小林 眞さん

「キーワードは地域共創。
学生や地域の希望、意見を踏
まえて公共政策、企業経営、
地域産業といった分野にしっ
かりと目標を定めながら新た
な大学の形をつくっていく。」

第11代学長就任に当たり、意
欲を見せる。
学校法人光星学院の法官新
一理事長とは、八戸市長時代
から高等教育機関の果たす役
割について意見を交わしてき
た。「地域とコミュニケーション
を取りながら育てていく
学校の在り方への考えを評価
してくれた」と受け止める。
大学の地域連携の重要性を
説く一方で、学生の本分は学
業が前提。「し
っかり学び、
社会に出る上
で必要な資格
取得など最低
限やるべきこ
とがある。そ
れを抜きに地
域との関わり
とは言ってい
られない」。

の役割を強調した上で、地域
との連携を重ね、さらに地域
が支えたいくなる学校組織への
進化を目指す。
八学大生の印象について
「スポーツの活躍はいうまで
もなく、はきはきしていて元
気があって素晴らしい」と褒
めるが、「少し素直すぎる部
分はある」とも。学生時代は
自分の可能性を広げる時間。
人やもの、本などとの出会
いで人格が成長する場と捉え、
さまざまに積極的に関
わってほしいと期待する。

自分の興味に向かい、いろ
いろな人と交流したり、好き
な本を読んだりする生活は、
市長時代と変わらない。最近
の興味は「トランプ大統領が
就任するアメリカの行方」。
八戸市の自宅で妻と次女と3
人暮らし。74歳。

(下館悠々)

選考された。小林氏は同市
出身で、東北大学法学部卒。
総務省を辞職して2005
年の市長選に出馬し、現職
を破って初当選。連続4期
16年務めた。
19年4月から学長を務め

る水野氏(70)は退任後、研
究者として大学に残る。会
見では、同大短期大学部学
長に再任された杉山幸子氏
(62)も同席した。任期はい
ずれも3年。
(下館悠々)